

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3271600458		
法人名	有限会社 美奈須		
事業所名	グループホーム 萌		
所在地	島根県簸川郡斐川町大字学頭1322-1 (電話) 0853-73-7170		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成20年7月30日	評価確定日	平成20年8月11日

【情報提供票より】(20年6月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月12日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤8人, 非常勤10人, 常勤換算14, 5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1~2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	30,000円
敷金	有()円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(6月21日現在)

利用者人数	18名	男性 8名	女性 10名
要介護1	0名	要介護2	4名
要介護3	6名	要介護4	6名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均 84歳	最低 58歳	最高 99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	島根県立中央病院・斐川生協病院・原齒科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型として近所、自治会、学校などと積極的に交流し、地域からの見学者が増えるなど、4年間の管理者、職員の努力がうかがえるホームである。利用者のできることを常に考え、カラオケや合鴨農法の稲作、食事の準備など、楽しみや役割のある生活の支援を行っている。積極的に記録の開示を行うなど家族との関係を大事にしている信頼関係が築かれている。管理者はホームのあるべき姿を追求し、職員と共にやりがいや喜びのあるホームを目指し奮闘している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域とのつきあい」「同業者との交流」「災害対策」が課題であったが、積極的に取り組み全て改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で評価の意義を話し合い、自己評価検証確認書ノートを活用して評価項目を分担しあい、年間を通して計画的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者の状況や外部評価、防災体制、家族・地域との連携などについて協議し、グループホームの役割を話したり意見交換を行っている。地域のいろいろな情報提供があり、参加者とのつながりから地域との交流が強まっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問時やアンケート、家族会などを通し積極的に意見を聞いている。日頃から家族との関係を大切にし、家族の納得のいく支援を心がけていて、出された意見に対して迅速に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域や学校行事への参加、ボランティアの受け入れなど、地域の一員として交流している。防火協力が結成されるなど、地域の人からの協力が得られている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で地域密着型サービスとしての事業所の役割を確認しあい、わかりやすい理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日理念の唱和を行い内容を確認しあっている。ミーティングでは、利用者をお客様扱いせずその人らしい暮らしができていないか振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や地域、学校行事への参加、小・中学校の体験学習、ボランティアの受け入れなど、積極的に地域と交流している。近所の人から野菜の差し入れなどもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々の業務が流されないよう全職員が評価項目を分担し合い、年間を通して振り返りを行っている。全員で課題を共有し検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や防災体制、家族や地域との連携などを協議し、地域の情報を得ている。教師やボランティアなど出席者も多彩で、地域とのつながりが強まっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の研修会や事業者連絡会に参加し情報交換を行ったり、随時出向き相談をするなど連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「もえつうしん」、金銭報告、などと共に「生活の様子」を写真付きで報告している。積極的に記録開示を行い、訪問の少ない家族にも計画書を持って出向き様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には必ず声をかけ意見を聞いている。家族会総会にも参加したくなるような工夫が見られ、要望、意見は運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は日常的に応援時や外出時などで顔なじみになっていて、2ユニットの利用者の状態を把握できる表を作成し、異動があった場合にも影響がないよう工夫している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修に参加し内容を共有しあっている。医師、看護師などによる勉強会や資格取得後の支援、職員一人ひとりの目標に対する日常的な教育など、積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネジャーの会議や連絡会に参加したり、開設が同じ時期の同業者と相互研修を行うなど意欲的に取り組んでいる。職員も学びや気づきをケアに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者や職員は、利用開始前に自宅や入所先を訪問し馴染みの関係を築いたり、見学や体験入居の期間を設けるなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの生活の知恵を教わったりさりげなく手伝ってもらっている。笑顔やねぎらいの言葉をかけてもらうことで、職員は癒されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族と一緒にカンファレンスを行うようになり、意識的に思いの把握に努めている。センター方式も活用し、家族にも協力してもらっている。	○	さらに、カンファレンスに参加する家族が増えることを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「介護計画作成のためのお願い」文書を家族に送り、利用者の思いや家族、関係者の意見も反映した具体的な介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、本人、家族、職員の意見を聞いて介護計画の見直しを行い、利用者の状態を細やかに把握している。地域包括支援センターの助言を受けて評価用紙を工夫した。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時の付き添い、外出、外泊、家族の宿泊など、利用者や家族の希望に応じて柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診が行われ、必要時には受診をしている。今年度から胸部レントゲン、心電図検査を実施するようになり早期発見につなげている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして最大限できることを伝え、その上で利用者、家族の思いを大切にしながら医療機関と連携して対応している。看取り事例もあり方針は全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	トイレ誘導や介助時、利用者のプライドを傷つけないように気をつけている。地域向け「つうしん」の写真も家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や過ごし方は利用者のペースで支援している。晩酌をする人、自分専用のコーヒーセットを持っている人など、希望を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かしながら職員と一緒に準備や片付けを行っている。職員は、一緒に食事をすることは楽しみでもあり、味付け、硬さの確認にもなると認識している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉の湯を使用し、利用者の希望に沿った支援をしている。夜間入浴も実施し、利用者主体の生活を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、田植え、ビーズ手芸など、生活歴や特技を活かしたり、カラオケ、野菜を新聞で包む、人参の皮をむくなど、利用者のできることを考え役割を作り出す工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食や買い物、その日の天候によって急遽大鍋持参で出かけるなど、柔軟に取り組んでいる。希望により一泊旅行も計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず自由に出入りができるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下、年2回避難訓練を実施している。地域の人々の協力により防火協力会が結成され、地域消防団とともに、合同訓練を実施した。備蓄もしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の野菜を多く摂るようにし、体重変化や水分量に留意している。定期的に管理栄養士にメニューの指導を受けたり医師を呼んで勉強会をし、利用者にあった支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や七夕飾りなど季節感が感じられるものがあり、装飾も過度にならず落ち着いた雰囲気がある。浴室、トイレなど、清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや仏壇、衣類かけ、写真などが持ち込まれ家族や利用者の思いで居室作りが行われている。ビーズ手芸を飾っている人もいる。	○	馴染みの小物を持ちこむなど利用者や家族と話し合いながら、さらにその人らしい雰囲気作りを期待したい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。